

福祉の心を育てる教育の実践

米子市立車尾小学校

1. 本校の教育目標

『主体的に学び 心豊かに 未来社会を切り拓く 子どもの育成』

- ・進んで関わり合いながら学ぶ姿
- ・進んで家庭学習に取り組む姿
- ・良さや正しさを判断し実践する姿
- ・思いやりのある行動をとる姿
- ・車尾小3つの「あ」（「あいさつ」「ありがとう」「あたりまえ」）を守る姿

2. 福祉教育の目標

◎思いやりの心を持ち、たがいのよさを認め合い、豊かにつながっていこうとする児童の育成

○相手を認め合う人間関係を大切にし、思いやりの心をもって、互いに助け合い励まし合っていく態度を育てる。

○人間尊重の精神を基盤とし、よいことを進んで実践しようとする豊かな人間性と福祉の心を培う。

○家庭、地域社会を愛し、適応する能力を身につける。

3. 実践の報告

(1) 地域の方との交流

【各教科、行事】

1・2年生のさつまいもでは、地域の方をゲストティーチャー（以下GT）としてお招きしている。3年生は手話やボッチャ体験の学習においてGTをお招きし、実際に体験することで学びを深めた。4年生は地域に流れる日野川にサケを放流するプロジェクトに参加しており、それぞれの学年が自分の住んでいる地域に親しみながら学習を深めている。5年生は、地域の幼稚園や保育所に出かけ、園児たちとの触れ合いを通して様々な人との「お互いが心地よい関わり」について考えを深めている。

(2) 障がい者との交流

3年生は、総合的な学習の時間に、「みんなにやさしい車尾のまちに」と題して福祉の視点で学習に取り組んだ。「ボッチャ体験」では、障がい者スポーツを楽しみながら理解することを目的とし、誰でも活躍できるこのスポーツのすばらしさについて学ぶことができた。「高齢者疑似体験」では、実際に装具をつけて高齢者の体にかかる負担を体感した。階段を上り下りすることで、歩きにくさや見えにくさを体験することができた。高齢者にとって日常の動きがどれほど大変か、身をもって知ることができた。「車椅子体験」では、一人が車椅子に乗り、友だちが介助者となって段差を越えたり、カーブを曲がったりすることを体験した。普段何気なく歩いている道も、車椅子を使う人にとっては、周りの人の助けが必要な場合があることに気付くことができた。



ボッチャ体験



車椅子体験

(3) ありがとうメッセージの取り組み

交流ボランティア委員会の児童が中心となり

「ありがとう運動」が行われた。日ごろ感じているありがとうの気持ちを改めて伝える良いきっかけとなった。また、PTA人権・同和教育推進部が中心となり、保護者と児童との間での「ありがとうメッセージ」の取り組みを行っている。温かなメッセージのやりとりに、児童は保護者に大切にされている喜びを改めて感じる事ができた。今学期は、学年末懇談に掲示予定である。

(4) 各種募金活動

緑の羽根募金、赤い羽根募金を行った。委員会の児童が中心となって、各学級にお願いのポスターを作ったり、校内放送で呼びかけたりした。募金活動の際には、中心となる児童が募金の使われ方などを自分たちで調べ、目的意識を持って取り組むことができた。

4. おわりに

本校の児童は、毎年、異年齢交流、地域の方との交流などを通して、様々な人々への温かな思いを育むことができた。今後も人との関わりを大切にしながら、思いやりの心を持ち、互いのよさを認め合い、豊かにつながっていこうとする児童の育成につとめていきたい。



赤い羽根募金運動